



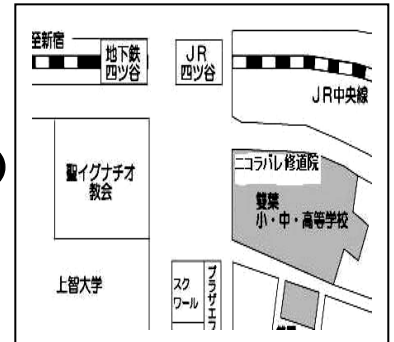
隠された内部被曝の危険

講師: 矢ヶ崎克馬氏(琉球大学名誉教授)

日時: 2012年2月12日(日) 14時半~17時

場所: 四ツ谷ニコラバレ9階(四ツ谷駅麴町口すぐ前)

*資料代500円、ただし被災された方、避難しておられる方々は無料です。



「年間100ミリシーベルト以下の健康被害はわからない」と信じている方、それは「わからない」のではなく「隠されてきた」のです。

放射線の被曝には外部被曝と内部被曝がありますが、広島・長崎の原爆投下後米国の原爆傷害調査委員会は放射能被害を少なくみせるためデータを隠し、内部被曝を無視しました。日本はこの流れを汲むICRP(国際放射線防護委員会)の基準を用いており、内部被曝について考慮していません。チェルノブイリ事故においても同様で、そのために放射能被害は極端に過小評価され、多くの人々の健康が損なわれました。

福島第一原発事故によって空、土、川、海にまき散らされた放射性物質・・・それはすでに、チェルノブイリ事故を越えて、未だ収束のメドもつかない人類未踏のレベルです。当局の無責任な原子力政策のもとで、食品の放射能基準値についての対応も空間線量への対策も整わないまま、現在私達は内部被曝の危険の中で生きているのです。

意図的に隠されてきた内部被曝のメカニズムを知り、一人ひとりが子ども達とその未来を守るために力を合わせましょう。心配なさっているお母さんや妊婦さんは勿論のこと、「ちょっと大げさじゃないの?」と思っておられるお父さんにこそ聞いていただきたい講演会です。



矢ヶ崎克馬先生プロフィール;

1943年東京生れ。広島大学大学院にて物性物理を研究中に、市民力で沖縄返還が実現したことに感動して沖縄に移住、琉球大学理学部教授となる。米軍基地での劣化ウラン弾使用を知り、健康被害を糾弾するために内部被曝の研究を始める。2003年より原爆症認定集団訴訟で、内部被曝について証言を行い、19回の連続勝訴に導く。「科学者は市民とともに」をモットーに、「科学者はICRPの呪縛から目覚めて、正しい科学をせよ!」と主張し続けている。

主催: 脱原発・自然エネルギーを考えるカトリック市民の会
(連絡先: 三上 090-4396-7446)

共催: カトリック東京正義と平和委員会